



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年2月2日
東

上場会社名 株式会社ダイショー 上場取引所
コード番号 2816 URL <https://www.daisho.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役会長（氏名） 松本 洋助
問合せ先責任者（役職名） 取締役管理本部長（氏名） 矢野 宏一（TEL）092-611-9340
四半期報告書提出予定日 2024年2月9日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2024年3月期第3四半期の業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	20,051	8.2	1,285	28.7	1,295	28.5	891	32.3
2023年3月期第3四半期	18,539	3.4	999	△30.7	1,008	△30.4	674	△31.4
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
2024年3月期第3四半期	円 銭 92.38		円 銭 —					
2023年3月期第3四半期	円 銭 69.84		円 銭 —					

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	18,030	9,832	54.5
2023年3月期	15,352	9,090	59.2

（参考）自己資本 2024年3月期第3四半期 9,832百万円 2023年3月期 9,090百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
2024年3月期	—	9.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	9.00	18.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,000	7.0	850	75.3	850	70.8	530	70.5	54.91

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年3月期3Q	9,868,800株	2023年3月期	9,868,800株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2024年3月期3Q	216,088株	2023年3月期	216,088株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年3月期3Q	9,652,712株	2023年3月期3Q	9,652,712株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府主導による賃上げ政策により所得環境が改善するなど、景気は緩やかに回復いたしました。一方で、長期化する世界的な金融引締めは円安を継続させ、それにとまなう物価高は暮らしに影響を与えており、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、企業は上昇し続ける原材料価格や労働コストなどを吸収しながら利益を確保しなければならず、経営の正常化には厳しい状況となりました。

このような状況のもと、当社は、2025年3月期までの中期経営計画に沿い、次世代を切り開くダイショーらしさを確立し、企業価値の向上をめざして、成長を持続させてまいります。特に今期は、適正な価格を意識し付加価値のある製品開発や価格改定を軸とした収益力の改善に取り組んでおります。

製品群別の概況は、以下のとおりであります。

液体調味料群の小売用製品においては、「おうち焼肉」の根強いニーズを背景に焼肉のたれ類が好調に推移いたしました。『秘伝焼肉のたれ』については、インフルエンサーを活用した企画において焼肉のたれとしてのみではなくアレンジメニューを提案するなど、認知度を高める施策を実施いたしました。また、「名店監修」シリーズのまぜそばの素が、積極的な販促キャンペーンを実施するなか、あらたに投入した『名店監修 すみれ味噌仕立て油そばの素』の好調な売れ行きも重なり、売上を牽引いたしました。鍋スープでは、最需要期である秋冬市場において昨年に引き続き「鍋スープ」全品を対象としたクローズドキャンペーンを実施するなど積極的な販促活動を展開した結果、好調に売上を伸ばしました。なかでも好調な売上を継続している「名店監修」シリーズの新製品『名店監修鍋スープ 天下一品京都鶏白湯味』が発売から好調に推移し、大きく売上に寄与いたしました。業務用製品では、多彩なフレーバーで展開しているオイルソースが精肉向けの製品を中心に引き続き好調に推移いたしました。この結果、売上高は150億92百万円（前年同期比110.4%）となりました。

粉体調味料群においては、ロングセラー製品『味・塩こしょう』が発売55周年を迎え、有名アニメーションとのコラボレーション製品を期間限定で発売するとともに、販促キャンペーンを展開するなど、主力製品を中心に販売促進に努めました。この結果、売上高は30億99百万円（前年同期比106.1%）となりました。

その他調味料群においては、コロナ禍における需要の反動減で「スープはるさめ」などの小売用製品の販売環境は厳しく売上高は18億59百万円（前年同期比95.6%）となりました。

以上の結果、及び2023年6月に実施いたしました製品価格改定の効果により、当第3四半期累計期間における売上高は、200億51百万円（前年同期比108.2%）となりました。利益につきましては、営業利益は12億85百万円（前年同期比128.7%）、経常利益は12億95百万円（前年同期比128.5%）、四半期純利益は8億91百万円（前年同期比132.3%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ26億77百万円増加し、180億30百万円となりました。流動資産が総資産の55.2%を占め、固定資産は総資産の44.8%を占めております。資産の変動は、主に「受取手形及び売掛金」が35億9百万円、「商品及び製品」が1億21百万円増加し、「現金及び預金」が6億77百万円減少したことによるものです。

負債は、前事業年度末に比べ19億36百万円増加し、81億98百万円となりました。流動負債が負債合計の77.2%を占め、固定負債は負債合計の22.8%を占めております。負債の変動は、主に「買掛金」が8億24百万円、「短期借入金」が5億円、「未払金」が4億35百万円、「未払法人税等」が2億80百万円増加し、「賞与引当金」が2億14百万円減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べ7億41百万円増加し、98億32百万円となりました。純資産の変動は、主に剰余金の配当1億73百万円の支出と四半期純利益8億91百万円の計上により「利益剰余金」が7億17百万円増加したことによるものです。自己資本比率は54.5%となり、前事業年度末に比べ4.7ポイント下降しました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

「業績予想の修正に関するお知らせ」(2024年1月30日に公表)において発表いたしました通期の業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産または流動負債として繰り延べる方法を採用しております。

②税金費用の計算

当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

3. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,196	1,519
受取手形及び売掛金	3,071	6,580
商品及び製品	1,134	1,255
原材料	421	497
その他	100	110
貸倒引当金	△8	△15
流動資産合計	6,916	9,949
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,418	2,339
土地	2,801	2,801
リース資産(純額)	808	715
その他(純額)	1,039	887
有形固定資産合計	7,068	6,743
無形固定資産	85	61
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,286	1,278
貸倒引当金	△4	△2
投資その他の資産合計	1,282	1,275
固定資産合計	8,436	8,081
資産合計	15,352	18,030

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,051	2,875
短期借入金	—	500
未払金	1,275	1,710
未払法人税等	71	352
賞与引当金	445	231
その他	459	660
流動負債合計	4,302	6,330
固定負債		
退職給付引当金	521	540
長期未払金	704	703
その他	733	623
固定負債合計	1,959	1,867
負債合計	6,262	8,198
純資産の部		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	7,879	8,597
自己株式	△114	△114
株主資本合計	9,015	9,733
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	75	98
評価・換算差額等合計	75	98
純資産合計	9,090	9,832
負債純資産合計	15,352	18,030

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	18,539	20,051
売上原価	11,091	12,081
売上総利益	7,448	7,969
販売費及び一般管理費	6,449	6,684
営業利益	999	1,285
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	3	3
不動産賃貸料	5	5
その他	11	14
営業外収益合計	20	23
営業外費用		
支払利息	11	12
その他	0	1
営業外費用合計	11	13
経常利益	1,008	1,295
特別利益		
投資有価証券売却益	14	—
特別利益合計	14	—
特別損失		
固定資産除売却損	1	3
特別損失合計	1	3
税引前四半期純利益	1,020	1,292
法人税、住民税及び事業税	346	400
法人税等合計	346	400
四半期純利益	674	891

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

該当事項はありません。